

AVANT
GROUP



2023年8月4日

各 位

会 社 名 株式会社アバントグループ
代表者名 代表取締役社長 森川 徹治
(コード:3836、東証プライム市場)
問合せ先 取締役財務担当 春日 尚義
(TEL:03-6388-6739)

中期経営計画「BE GLOBAL 2028」策定のお知らせ

当社は、2024年6月期を初年度とする5カ年の中期経営計画「BE GLOBAL 2028」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

2023年6月期を最終年度とする前中期経営計画では、売上高や営業利益、ROE、配当のKPIは達成し、中期経営計画期間において売上高は1.8倍、営業利益は2倍に成長しました。一方でビジネスモデルの転換については、ストック売上比率や売上成長率+営業利益率(ポイント)のKPIは目標値を下回り、課題が残る結果となりました。課題に対して、前中計の3年目には方針転換を行い、その活動の中で戦略マテリアリティ「企業価値の向上に役立つソフトウェア会社になる」を特定しました。

このマテリアリティ実現に向けて、新たに始まる中期経営計画「BE GLOBAL 2028」では、ソフトウェアを使って私たちのお客様への貢献力や生産性を高め、向上した利益を人的投資や新製品開発等を進め、それらのプロセスを通して当社の企業価値も向上していく価値創造スパイラルをつくりだしていきます。

「BE GLOBAL 2028」のアウトルック

	FY23	FY28	5年変化/平均
売上高	214億円	400~450億円	2x
営業利益	32.8億円	90~110億円	3x
営業利益率	15.4%	20~24%	+5~9pts
純利益	20.9億円	60~70億円	3x/CAGR 25%
1人当たり営業利益	2.4百万円	3.5~4.3百万円	1.5x
ソフトウェア粗利益	21.3億円	60~65億円	3.0x
ROE	18.3%	20%以上	AVG 20%
DOE	4.9%	8%以上	AVG 7%
配当	15円	51円以上	3.4x

添付資料

中期経営計画（2024年6月期～2028年6月期）BE GLOBAL 2028

以 上

3836 東証プライム市場

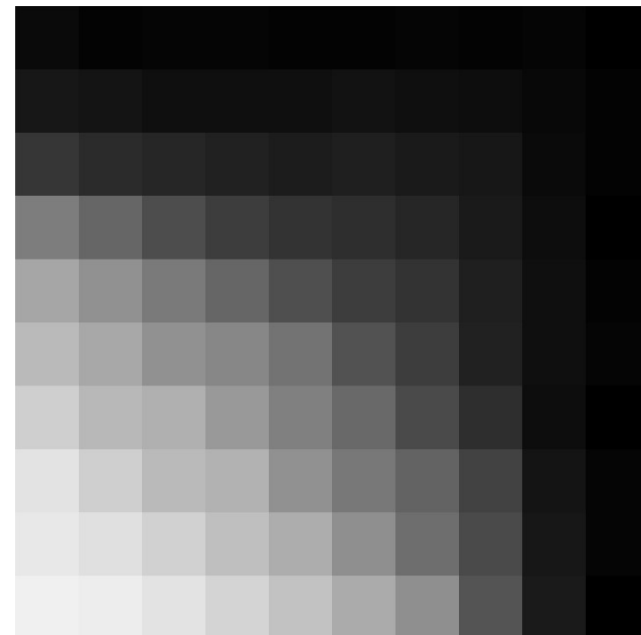
株式会社アバントグループ

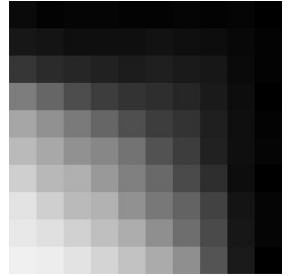
中期経営計画

(2024年6月期～2028年6月期)

BE GLOBAL 2028

2023.08.04





中期経営計画「BE GLOBAL 2023」の振り返り

中期経営計画「BE GLOBAL 2023」の振り返り

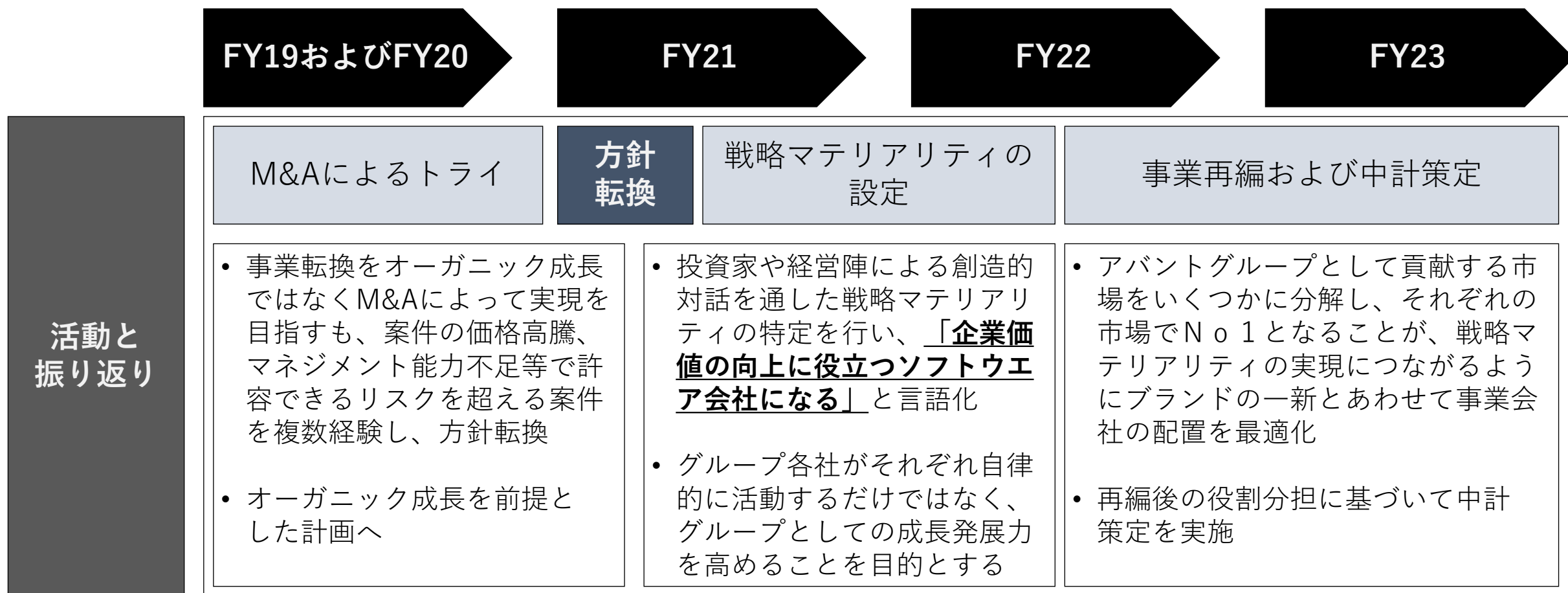
- オペレーショナルKPI、財務KPIともに達成し、売上高・営業利益は中計期間において2倍近い成長を実現した
- 唯一、ビジネスモデルの転換の目標であった戦略KPIは達成できなかった

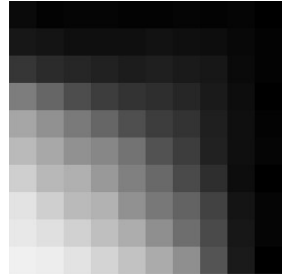
		FY18 実績	FY23 目標	FY23 実績	
Operational KPI	売上高 (億円)	121	180~220	214	売上高・営業利益共に中計の目標を達成し、中計期間で売上高は1.8倍、営業利益は2倍に成長
	営業利益 (億円)	16	31~38	32	
Strategic KPI	ストック売上比率 (%)	33	70	35	ビジネスモデルの転換は果たせず、戦略KPIは何れも未達であったが、ストック売上高はFY18の40億円からFY23には76億円まで増加
	売上成長率+営業利益率 (ポイント)	28.5	40以上	29.9	
Financial KPI	ROE (%)	24.5	20以上	22.2*	ROE・配当ともに中計の目標を達成
	配当 (円)	12	15以上	15	

* FY19期～FY23期の平均、但し、FY22期以降は新収益認識基準。FY23期の実績は18.3%

中期経営計画「BE GLOBAL 2023」の振り返り

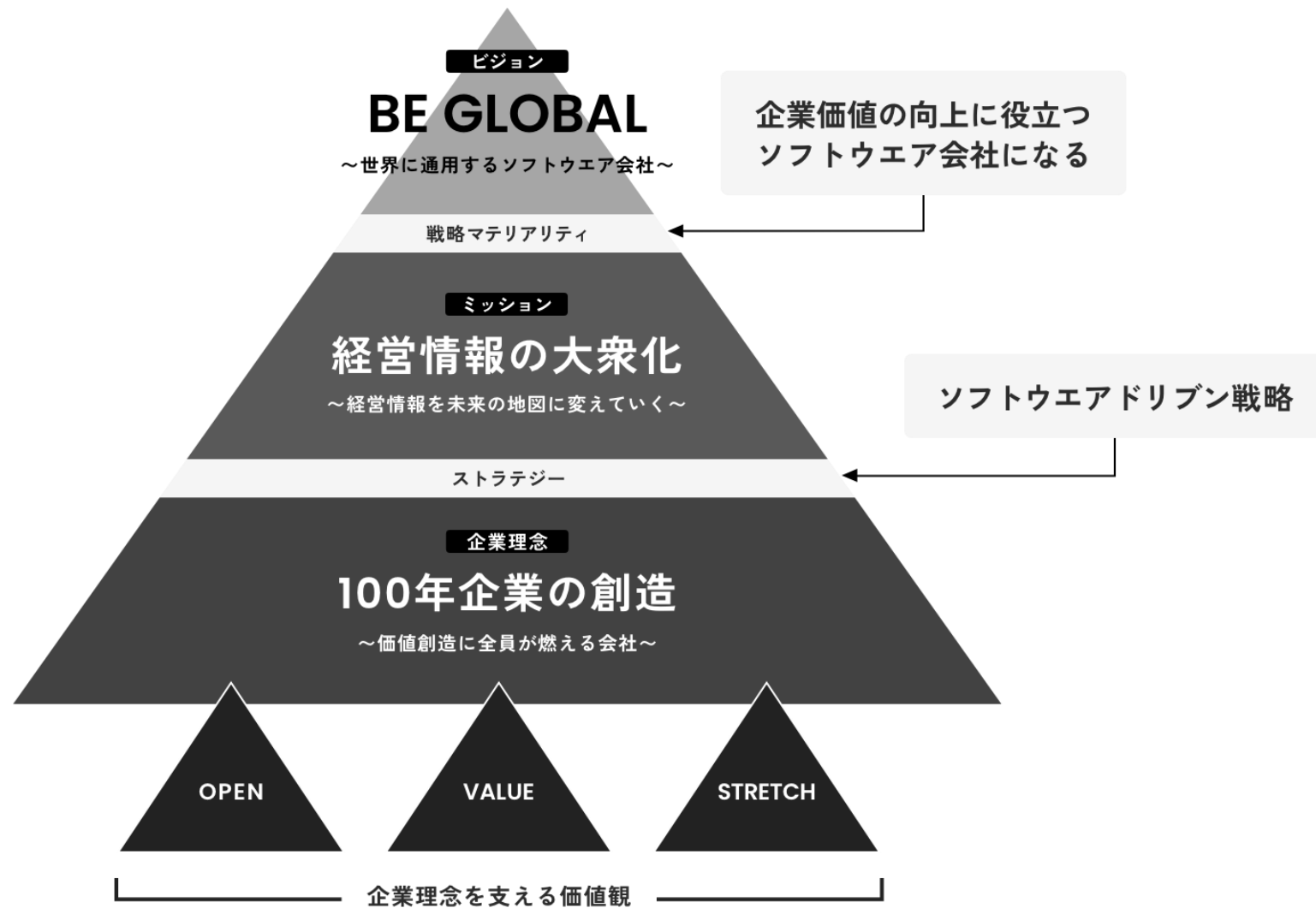
- 戦略KPIにおける課題に対しても、中計の3年目には方針転換を行い、それを踏まえた活動を実施





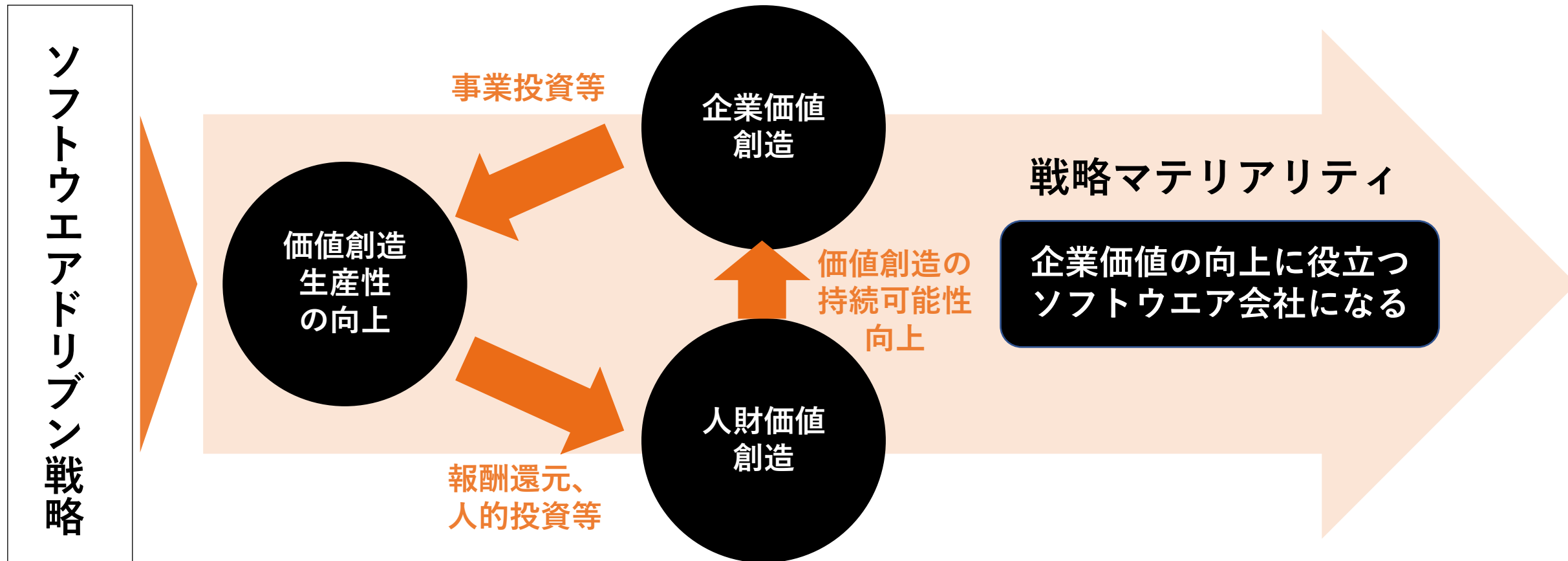
次期中期経営計画「BE GLOBAL 2028（BG28）」について

アバントグループの理念体系



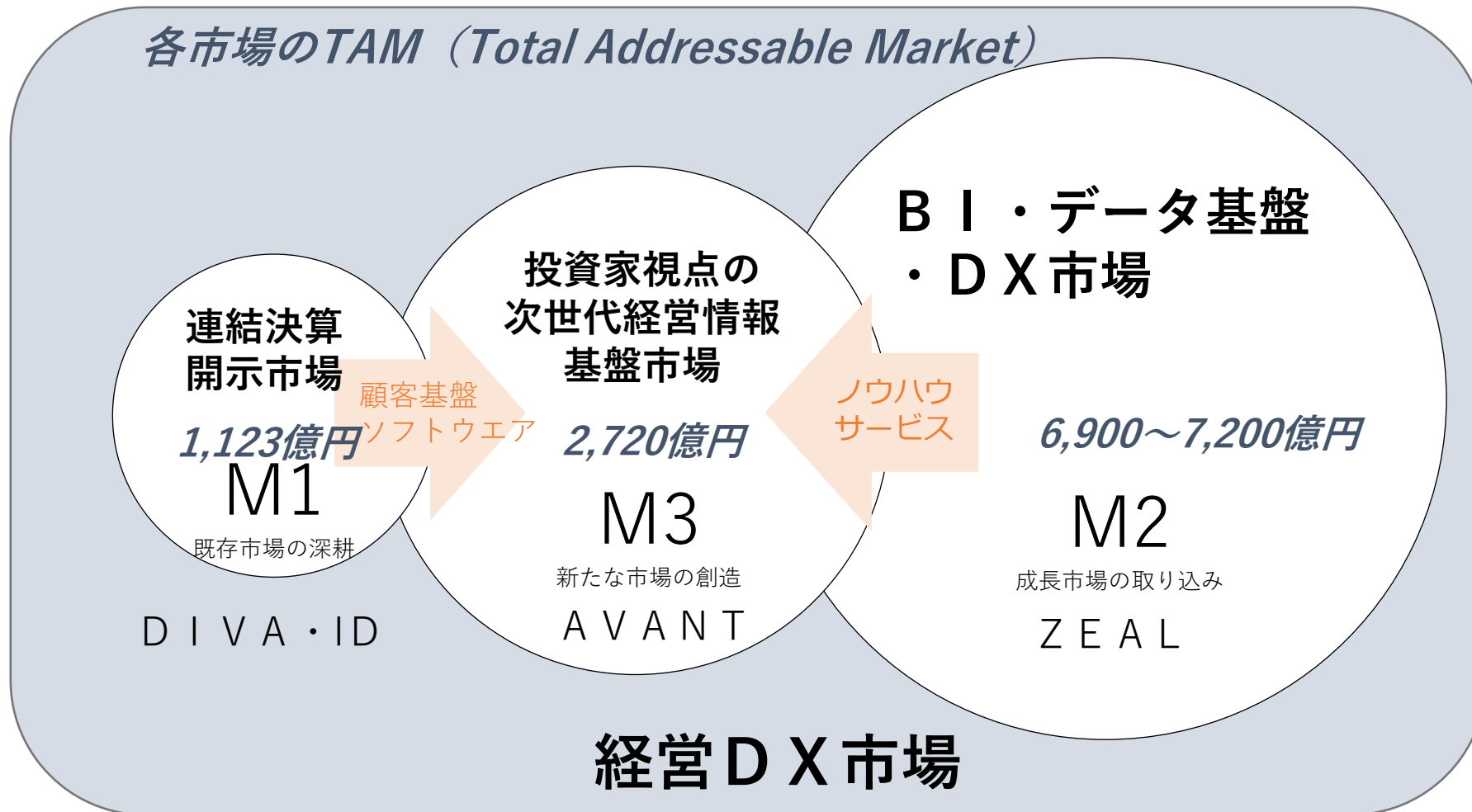
BG28で目指す価値創造スパイラル

- ソフトウェアドリブン戦略によってもたらされる価値創造生産性（1人当たり営業利益にて計測）の向上を起点とした人財価値創造、企業価値創造につながる価値創造スパイラルにより、戦略マテリアリティ「**企業価値の向上に役立つソフトウェア会社になる**」を実現する



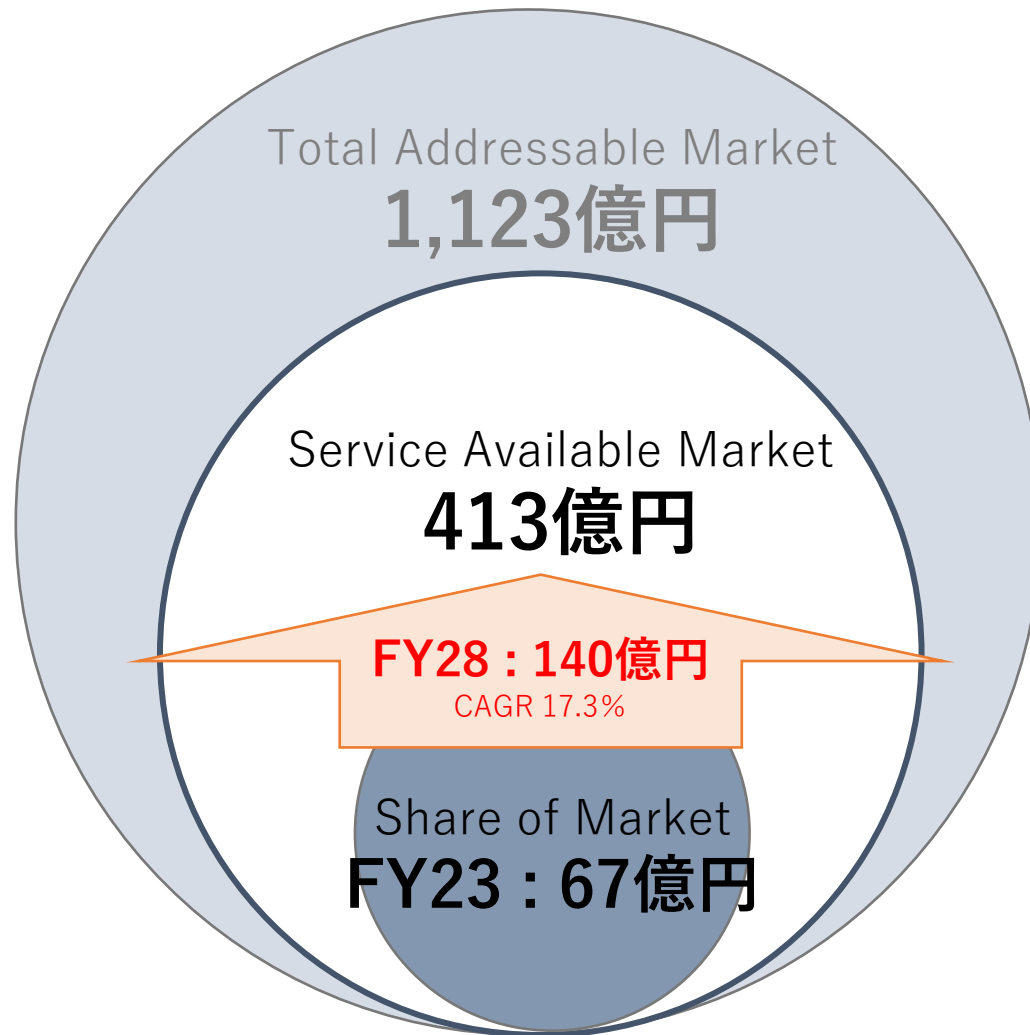
BG28で注力する市場

- 企業価値の向上がシリアスな課題となっている企業向けの経営DX市場にポジションニングする



既存市場の深堀：M1 連結決算開示市場（DIVA・ID）

- 400億円超の市場規模を持つ連結決算開示市場で、5年CAGR 17.3%の成長を目指す

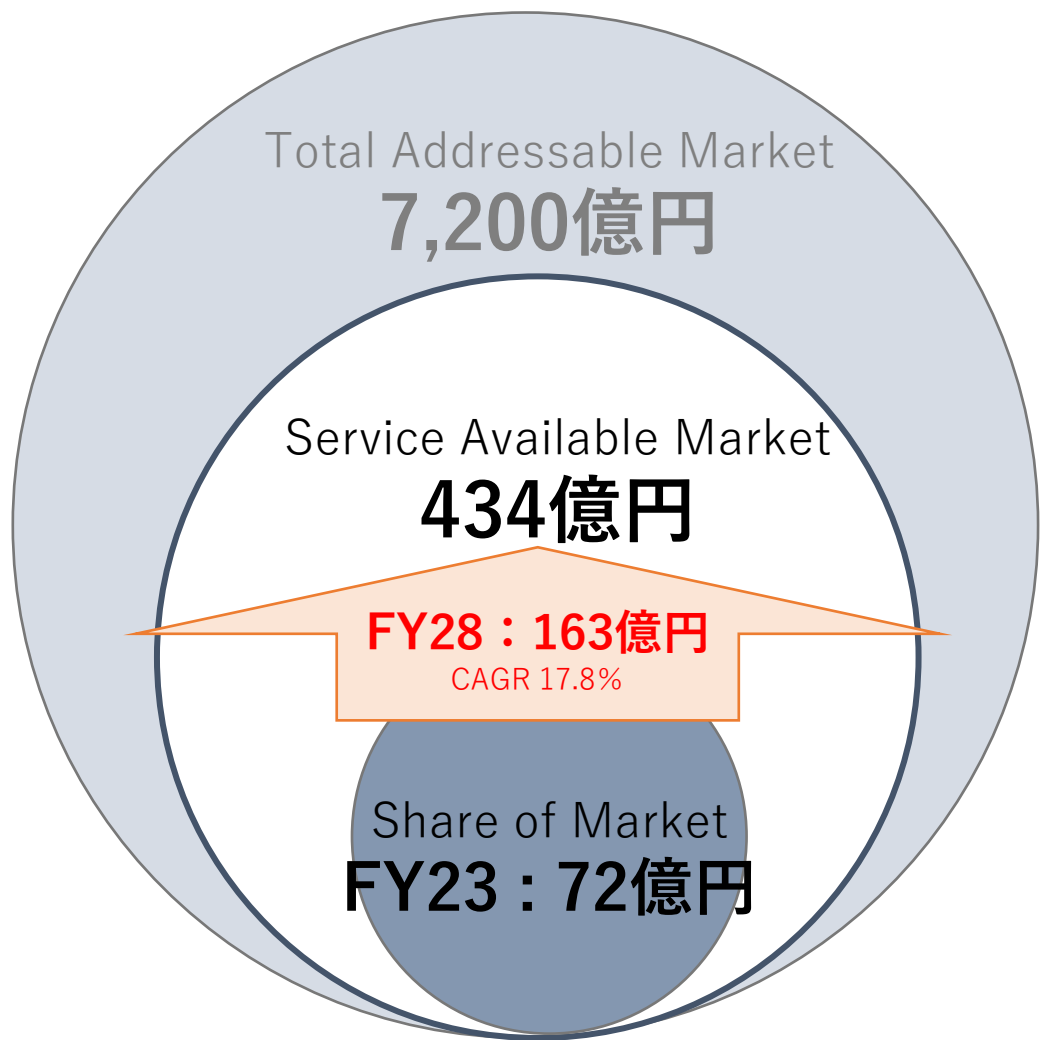


新セグメント名称

連結決算開示事業

成長市場の取り込み：M2 BI・データ基盤・DX市場（ZEAL）

- 400億円超の市場規模を持つBI・データ基盤・DX市場で、5年CAGR 17.8%の成長を目指す

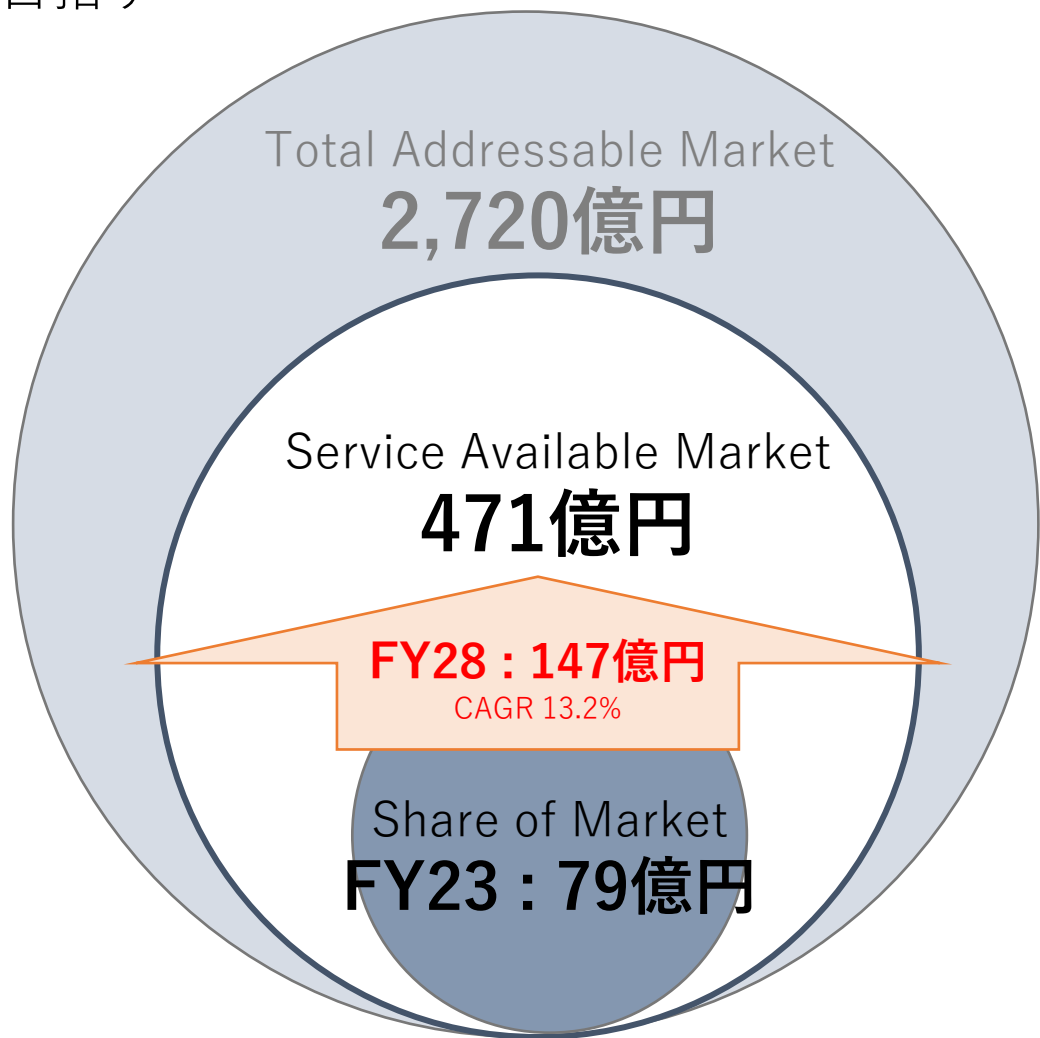


新セグメント名称

デジタルトランス
フォーメーション
推進事業

市場の創造：M3 投資家視点の次世代経営情報基盤市場（AVANT）

- 500億円弱の市場規模を持つ投資家視点の次世代経営情報基盤市場で、5年CAGR 13.2%の成長を目指す



新セグメント名称

経営管理
ソリューション事業

BG28のアウトロック

- B2Bソフトウェア成長企業として純利益成長率 CAGR 25%以上を基準とし、売上高2倍に対して純利益3倍の、価値創造生産性の向上を伴う事業成長を行う

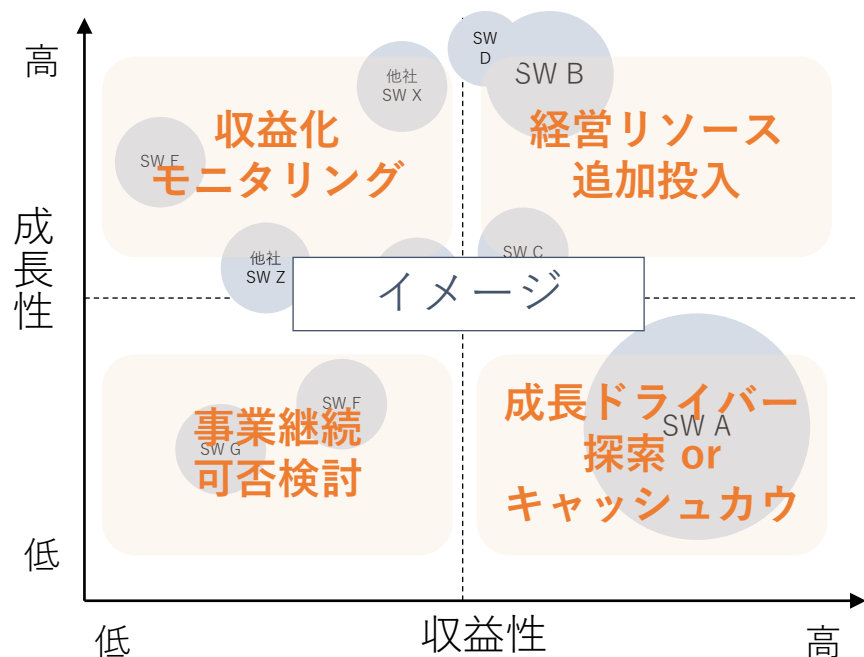
	FY23	FY24	FY28	5年変化/平均
売上高	214億円	240億円	400~450億円	2x
営業利益	32.8億円	38.5億円	90~110億円	3x
営業利益率	15.4%	16.0%	20~24%	+5~9pts
純利益	20.9億円	25.0億円	60~70億円	3x/CAGR 25%
1人当たり営業利益	2.4百万円	2.4百万円	3.5~4.3百万円	1.5x
ソフトウェア粗利益	21.3億円	21.7億円	60~65億円	3.0x
ROE	18.3%	19.3%	20%以上	AVG 20%
DOE	4.9%	5.3%	8%以上	AVG 7%
配当	15円	19円	51円以上	3.4x

ソフトウェアドリブン戦略のコンセプト

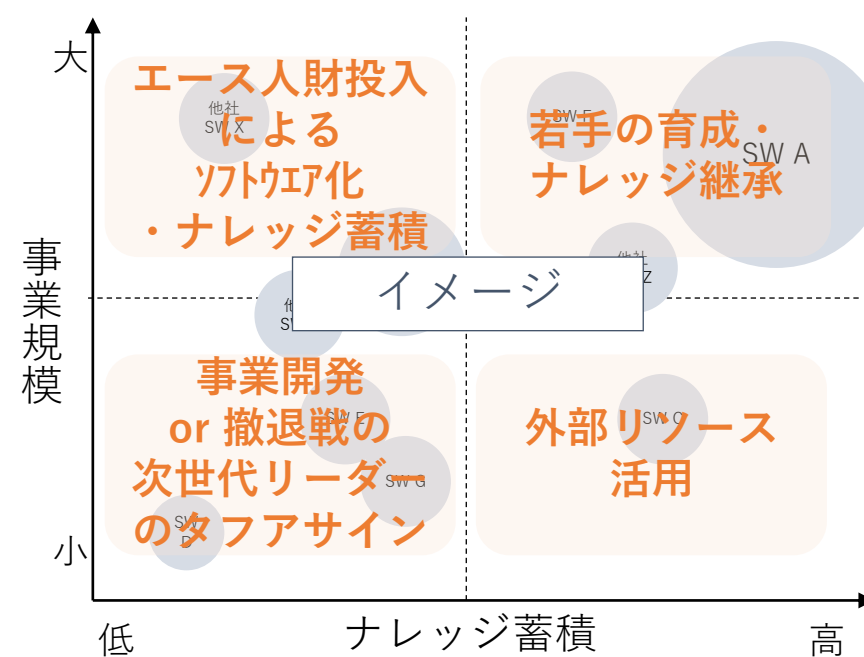
- 事業ポートフォリオ、人財ポートフォリオを始め、全ての起点をソフトウェアとするソフトウェアドリブン戦略により戦略マテリアリティを実現する

ソフトウェアドリブン戦略

事業ポートフォリオ



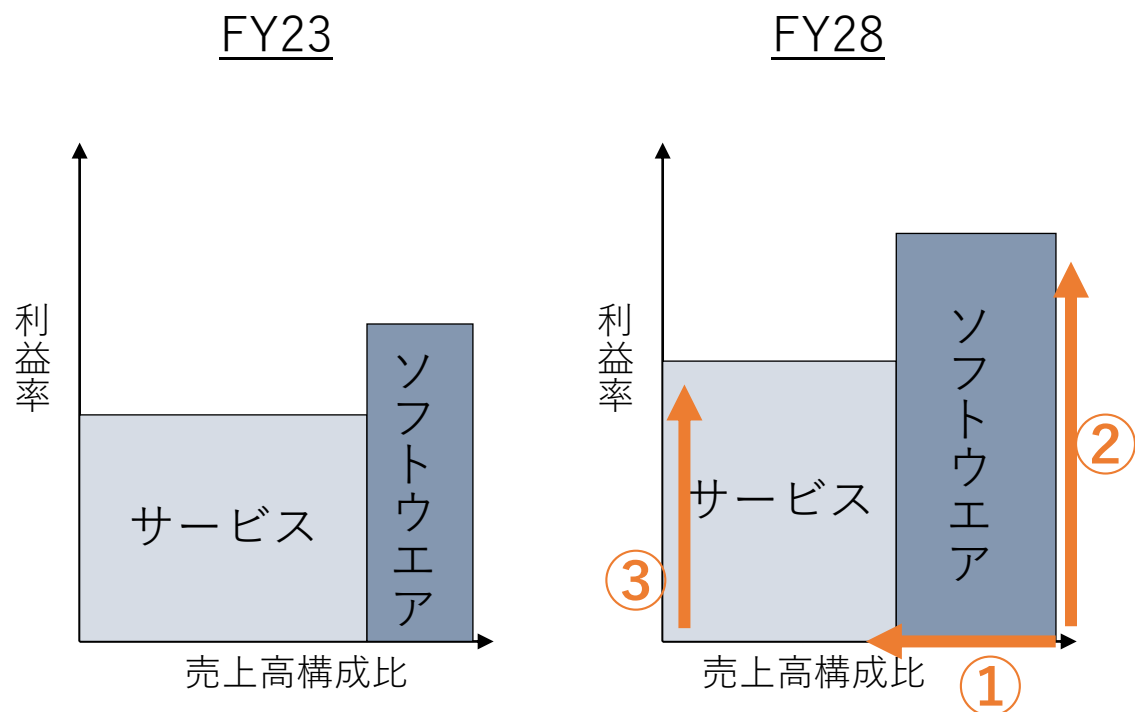
人財ポートフォリオ



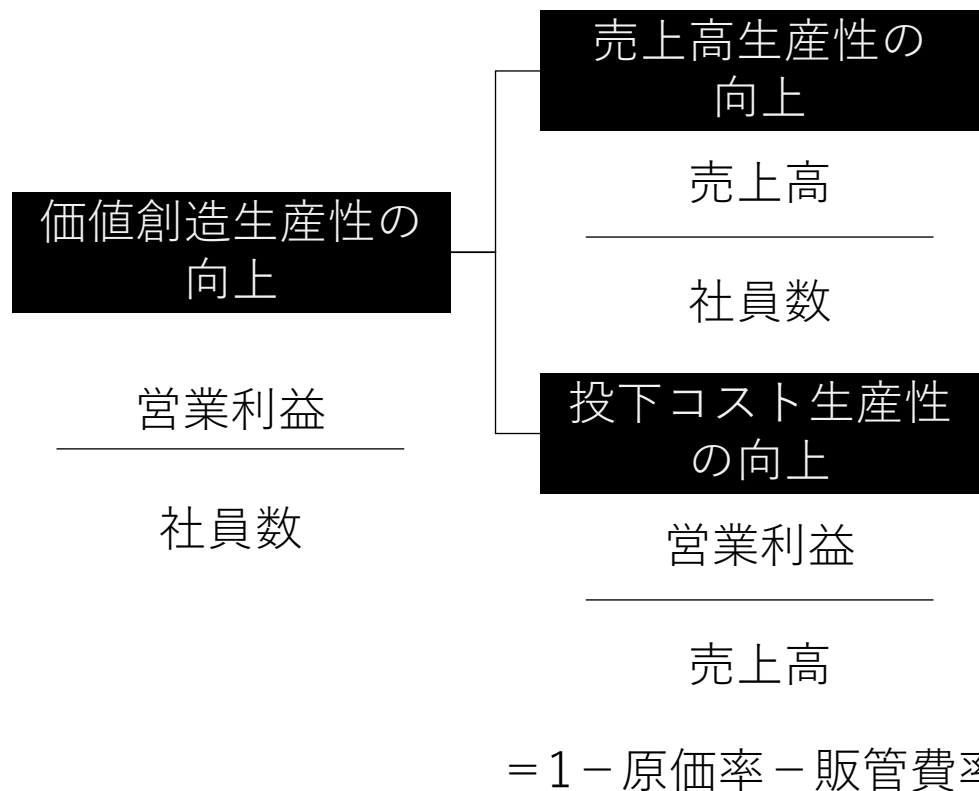
ソフトウェアドリブン戦略の効果と価値創造生産性の向上

- ソフトウェアドリブン戦略がもたらす3つの効果（①利益率の高いソフトウェアの売上高構成比の向上、②ソフトウェア利益率の向上、③サービス利益率の向上）が価値創造生産性の向上を実現し、利益成長をけん引する

ソフトウェアドリブン戦略の効果

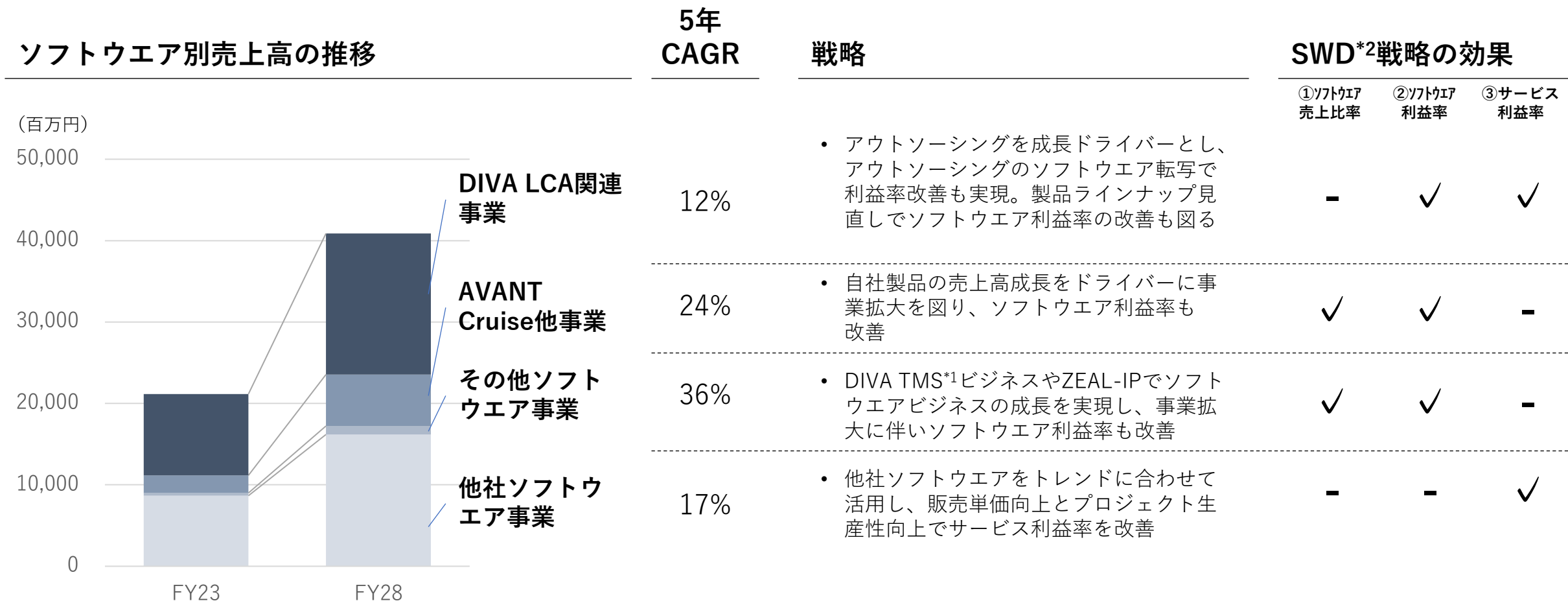


価値創造生産性の向上



ソフトウェアドリブン戦略（ソフトウェア別戦略）

- ソフトウェアごとの戦略により利益成長を実現する



※1 TMS：トレジャリーマネジメントシステム

※2 SWD：ソフトウェアドリブン

【参考】主な自社ソフトウェア

DIVA LCA 関連



国内シェアNo.1の連結会計・連結決算システム



グループ会社の明細データ可視化で実現するガバナンス強化と連結決算自動化



グループ予算管理・見通し管理などができるアプリケーション

AVANT Cruise 他



企業価値向上のための財務・非財務統合管理基盤



稼ぐ力を支える連結原価・多軸収益管理システム



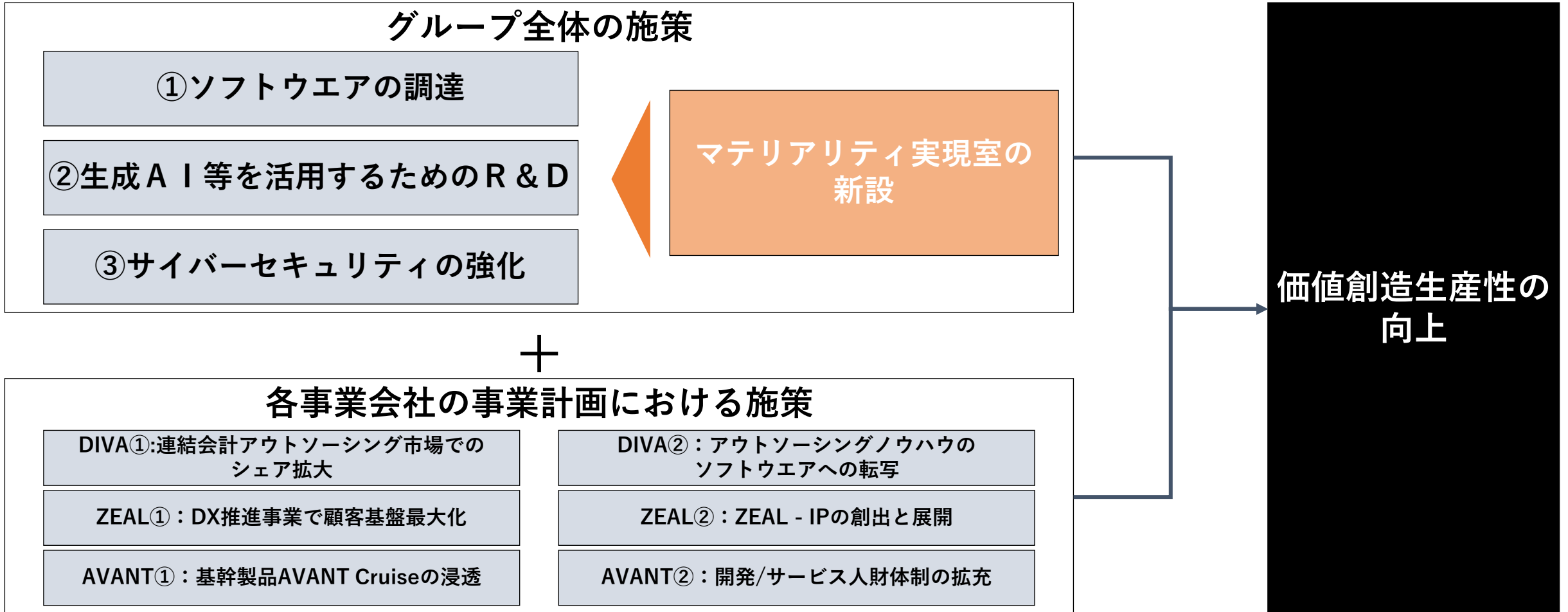
自社・他社の経営情報をすぐに使える経営管理BI



戦略・シナリオ策定のためのグループ経営ダッシュボード

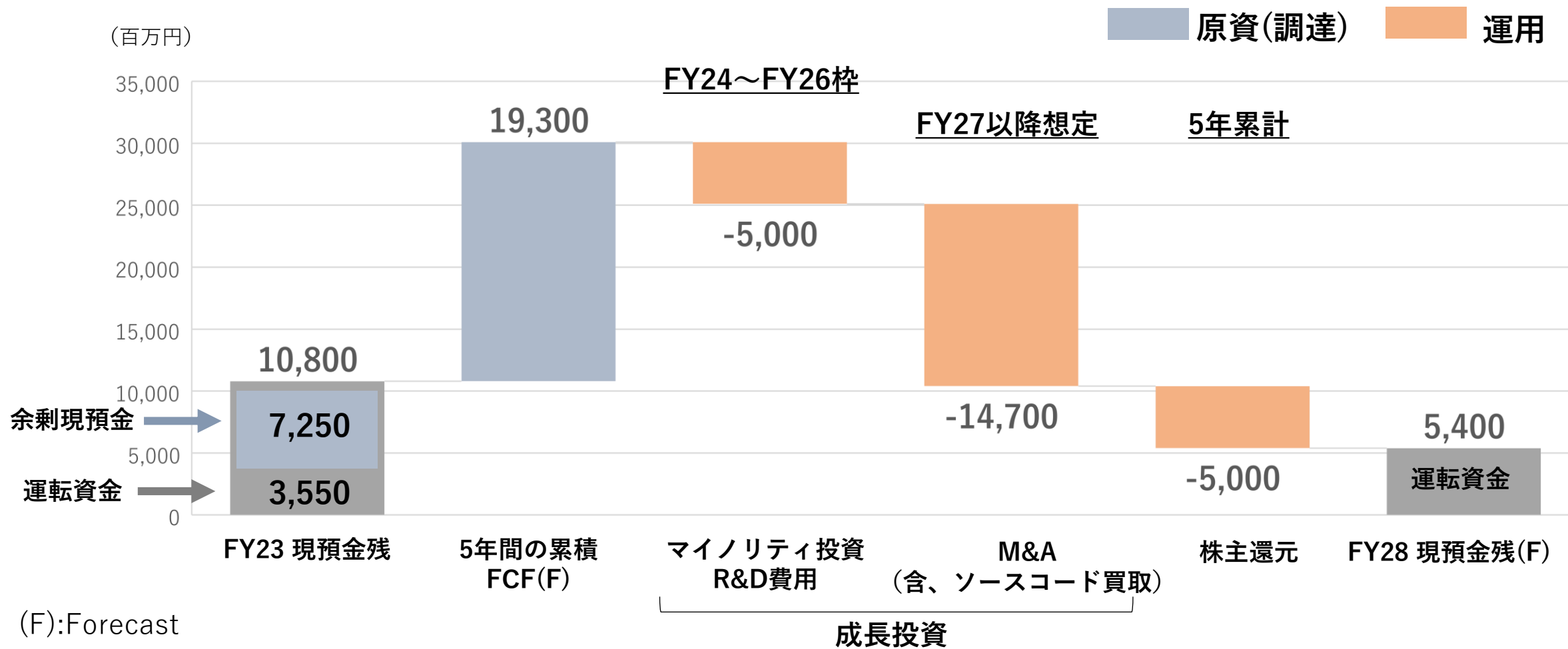
価値創造生産性の向上のための施策

- 各事業会社の施策に加え、グループ全体として価値創造生産性の向上を促進するため、マテリアリティ実現室を新設し、グループの戦略投資を実行する



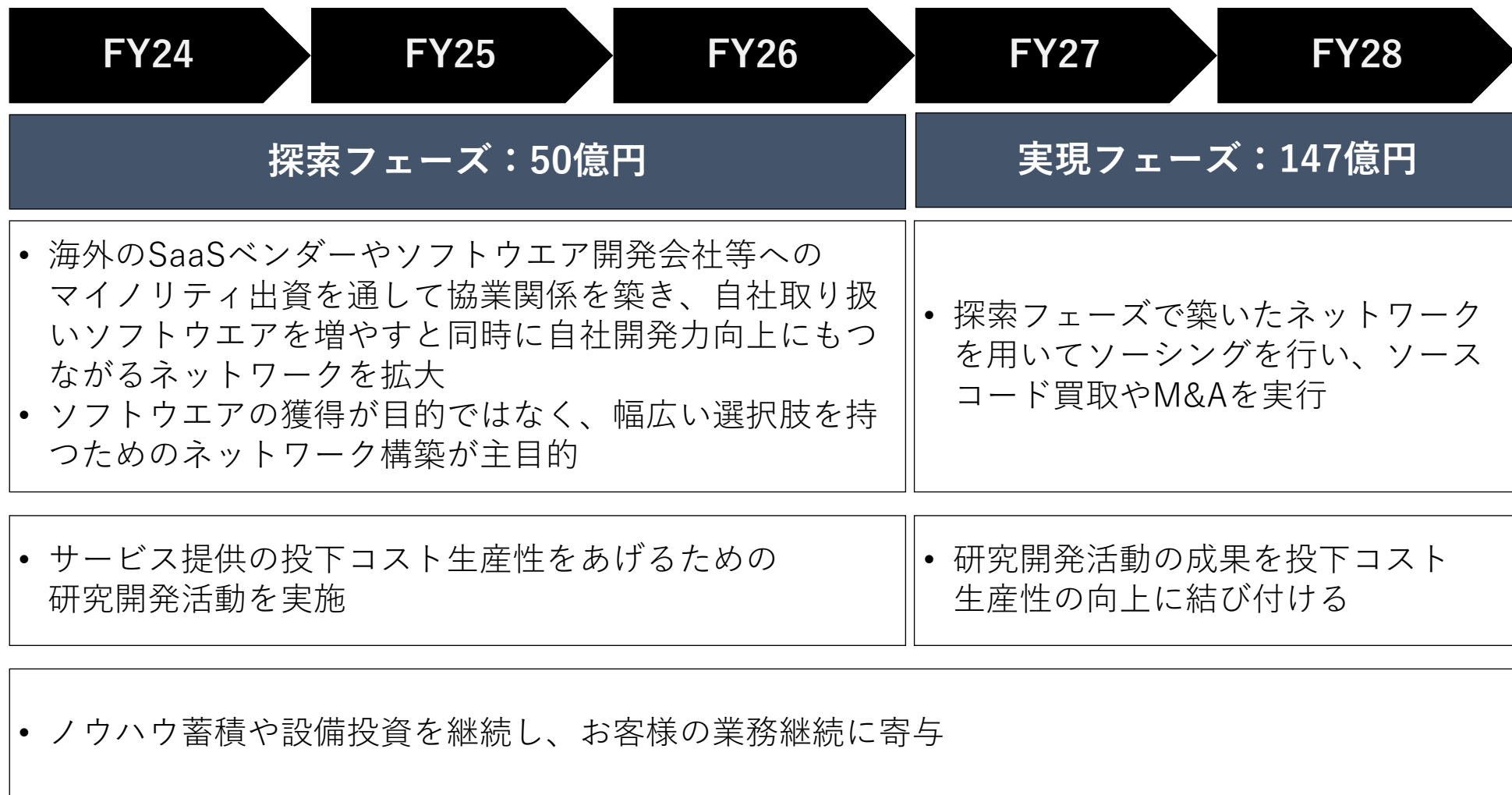
キャピタルアロケーション

- 中計期間の5年間で成長投資に総額200億円、株主還元(配当)にのべ50億円の支出を想定



投資のフェーズ

- 2～3年は探索フェーズとし、4年目以降に成果の実現を狙う



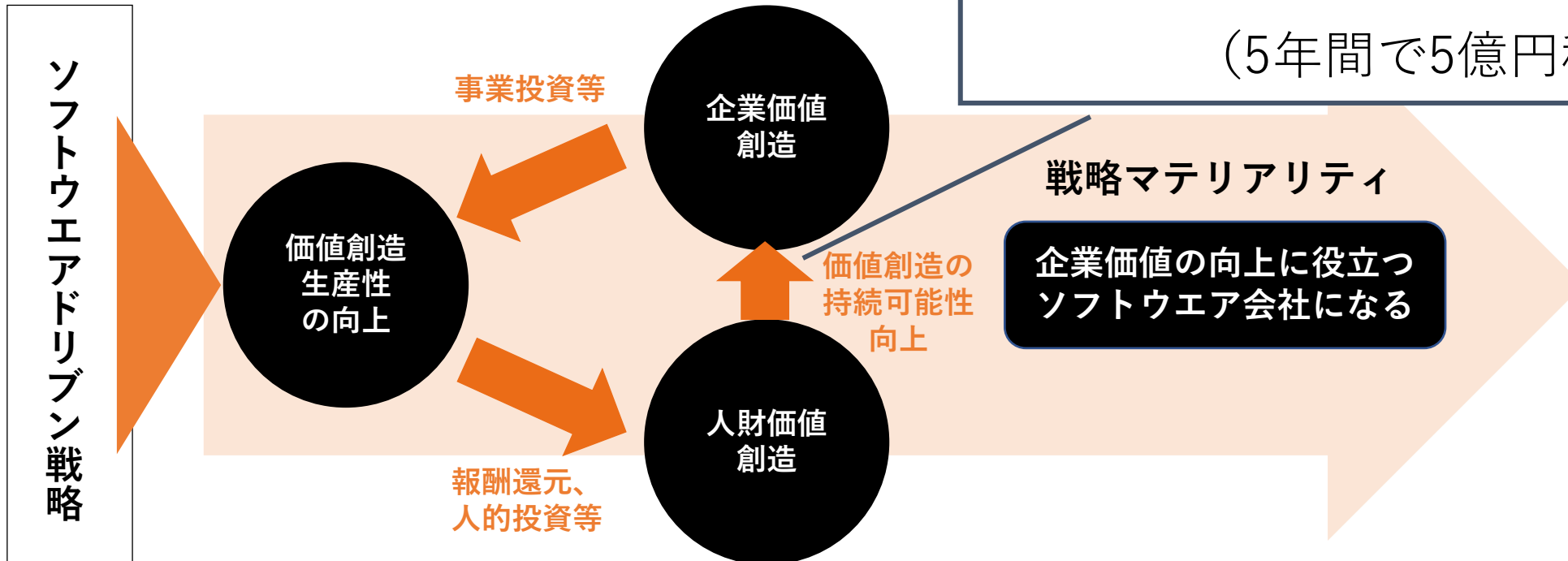
価値創造スパイラルの実現に向けて

- 社員全員株主化で人財価値創造から企業価値創造のスパイラルを強める

社員全員が株主の会社へ

自社の企業価値向上への意識を高めるため、毎期末に通期所属した社員全員に株式報酬を付与

(5年間で5億円程度)



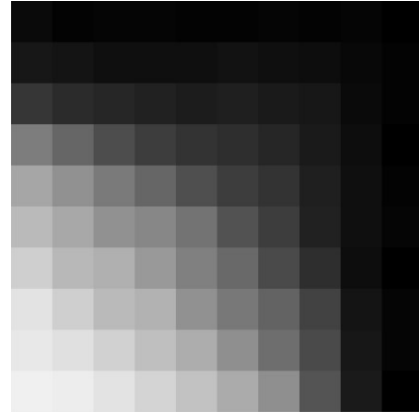
将来見通しに関する注意事項

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断によるものです。しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製または転送などを行われぬようお願いいたします。

■お問い合わせ先

株式会社アバントグループ IR室

ir@avantgroup.com



AVANT GROUP

SUSTAINABILITY IS VALUE